

令和6年度 府中市立府中第七小学校 学校経営報告

校長 田村 香代子

府中市立府中第七小学校 教育目標

「つよく」	丈夫な体と強い意志をもち、責任をもって最後までやり遂げる力。 健やかな体の育成 ～しんの強い子～ 【行動力】
「ただしく」	基礎学力を身に付け、真理と正義を愛し、主体的に考え、判断し、すすんで創造的に行動する力。 確かな学力の向上 ～学び続ける子～ 【問題解決力】
「あたたかく」	自他の人格を尊重し、豊かな心情をもって共に生きることのできる力。 豊かな心の醸成 ～思いやりのある子～ 【人間関係形成力】

目指す学校像

「みんなの笑顔が自慢！明日も来たくなる学校」

- (1) 「わかる」「できる」「たのしい」授業 (2) 安全で安心できる学校 (3) 体験活動の充実
(4) 地域や保護者と共に創る学校 (5) 学校の取り組みが見える学校
(6) 多様な個性を認め合う学校 (7) 府中第七中学校との小中連携・一貫教育の推進

1 はじめに

今年度は創立70周年を迎え、子供たちが主役となる記念行事を考えて実行してきました。地域を大事し「ふるさと府中」を誇りに思う児童の育成に、教職員が一丸となり取り組むことで、成果を発揮することができた1年間であったと思います。

2 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

① 4つの視点「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」を取り

入れた授業により、主体的に学ぶ児童を育成する。

- ・「発見すること」：児童が自ら課題を見つけられるような授業の展開を工夫する。
- ・「対話すること」：対話する必要性を児童が感じられる授業づくりを行う。
- ・「決定すること」：課題解決に向けて学習方法や表現方法を児童が選べるようにする。
- ・「表現すること」：国語科「話すこと・聞くこと」の校内研究を通して、豊かな表現ができる児童を育成するための単元開発を行う。

〈成果〉・校内研究を通して、授業改善が行われてきた。保護者アンケートでは項目「学校は『分かる・できる』授業に努めている」で80%以上の肯定的な評価をいただいた。

- ・児童が「4つの視点」を意識して授業を受けるようになった。

〈課題〉・教員研修のための講師費用を最大限に活用し、授業力向上に努めていく。

- ・対話に必然性をもたす授業にはまだ至っていない。

② 互いの違いを認め、友達を信頼し、助け合ったり高め合ったりすることができるようにする。

- ・児童一人一人の良さを認め、伸ばす。（全教育活動を通して）
- ・縦割り班の活動を通して、リーダーシップ及びフォロワーシップを養う。
- ・年間を通して縦割り班で「あいさつ運動」に取り組む。
- ・言葉の使い方や態度について指導し、学級や学年、異学年の仲間と仲良く生活できるようにする。（1学期に「ふわふわ言葉」に取り組む。）
- ・特別活動の行事などを通して、役割をやり遂げ、活動を楽しみ、人間関係形成力や自己肯定感を高めたり、自己実現を図ろうとする態度を育成したりする。
- ・2、3学期に「ありがとうの木」の取組を実施する。3学期には地域に広げる。
- ・学級や学年、縦割り班、クラブなど、集団での課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図る。
- ・「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」を推進し、オリパラ教育の継承、ふるさと学習、地域学習の活性化を図り、府中を愛する心を醸成し、豊かな人間性を育む。

〈成果〉保護者アンケート「学校は、一人一人の子供の良さを認め、励ますことを大切にしている」では80%の肯定的評価をいただいた。また車イスバスケットの体験や試合観戦、障害者理解教育を行い、豊かな人間性を育む教育の実践ができた。

〈課題〉・縦割り班活動が児童の主体的活動になっていないことがあったので、次年度は縦割り班活動の在り方を検討していく。

- ・「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」の予算を最大限に有効活用し、児童の体験活動につなげていく。

③多様な運動経験を通して体力の向上を図る。

- ・年間を通して縦割り班での「パワフル7（セブン）」を実施する。
- ・1学期「体力テスト週間」2学期「マラソン週間」3学期「なわとび週間」。全学年「ふちゅうロープチャレンジ」（長縄8の字連続とび）に参加する。
- ・中休み、昼休みと誘い合って自由に遊ぶ時間と、大勢での外遊びができるように、学級や学年で係をつくり、計画的に遊ぶ時間をもつ。

〈成果〉保護者アンケート「学校は、健康を保つための保健指導や体力向上の活動（パワフル7、マラソン、なわとび）の指導に取り組んでいる）では、95%の肯定的評価をいただいた。また「ふちゅうロープチャレンジ」ではほとんどの学級が上位入賞することができた。

〈課題〉パワフル7が体力向上のためになっていないのではないかという内部評価があった。次年度は縦割り班活動と体力向上の取組を分けて考えていく。

④道徳教育の充実を図り、温かで豊かな心を育てる。

- ・人権が守られているキーワード「安心して、自信をもって、自由に選べる」ことを理解し、実践する。（「人権作文コンクール」に参加）
- ・弁護士会の「いじめ未然防止」の授業を通して「いじめ」を許さない校風をつくる。
- ・日々の教育活動を通して、偏見、差別、いじめの芽を見逃さない。
- ・「いじめ対策委員会」を迅速に運営する。
- ・生命のかけがえのなさを理解し、大切にできるよう指導する。
- ・「道徳授業地区公開講座」を計画し、家庭や地域との共通理解、連携を図る。

- ・「郷土府中に根ざした道徳資料」を活用した授業を行う。

〈成果〉人権作文コンクールに参加した６年生は確実に人権に対する意識が高まった。また弁護士会の「いじめ未然防止」の授業のあとの保護者講演会には８０名ほどの保護者に参観していただき、アンケートも「とても理解できた。家庭でも話していきたい」というご意見を多数いただくことができた。

〈課題〉保護者アンケート「学校は、いじめなどの未然防止、早期発見、対応に取り組んでいる」では否定的な評価は少なかったが、「わからない」との回答が３０％にも上った。いじめの当該児童やその保護者でなくても、学校の取組が伝わるようにしていく必要がある。

⑤保護者や地域と連携した教育活動の推進

- ・ホームページの充実
- ・学校だより・保健だより・学年だより・学級だより・専科だよりの発行
- ・地域行事への参加、「ふれあいコンサート」への参加等を推奨し、全教職員が地域理解を深める。

〈成果〉保護者アンケート「学校は、教育の方針や学校の様子を家庭や地域に分かりやすく伝えている」では肯定的な意見が９５％だった。また「地域に根差した学校づくりに取り組んでいる」でも肯定的な意見が９４％と高かった。

〈課題〉地域行事への参加の意義を教職員に伝えきれていない。次年度は今年度参加した教職員の話を伝えることで前向きに参加できる雰囲気を醸成していく。

(２) 重点目標への取組と自己評価

①「つよく」

○自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

【目標：自己評価 75%以上】

- ・児童のよいところ、頑張っているところを教室、職員室の話題にし、情報共有できる仕組みをつくり、学校中で共有する。
- ・「今日のがんばりさん」、「今日のMVP」など、あらゆる場面で真面目に努力した子供が認められるようにする。

〈成果〉保護者アンケート「お子さんは、行事に積極的に取り組んでいる」では８２％の肯定的評価をいただいた。職員室の雰囲気も大変よく、児童のよいところを情報共有し、多くの教職員で児童をほめていくようになった。

〈課題〉児童自ら自分たちの学校生活で行いたいと思える活動を創造できるように、委員会活動等の充実を図っていく。

②「たたく」

○基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、学力を向上させる。

- ・「学習スタンダード」「授業スタンダード」を徹底する。(チャイム着席)
- ・家庭学習の習慣を確立する。(学年×１０分間)
- ・「ベーシックＤ」「eライブラリー」を活用し、反復学習をさせる。

【数値目標】東京ベーシックドリルの診断テスト等

○漢字：低・中学年９０％ 高学年８０％の定着率

○算数：低学年90% 中学年85% 高学年80%の定着率

○読書活動を推進し、創造性や豊かな心を育み、生涯にわたる学びの姿勢を培う。

【目標：3年生以上 学年×1,000ページ以上、達成率70%

1年生75冊以上、2年生100冊以上、達成率80%以上】

- ・全校一斉の朝読書、年3回の読書週間に取り組む。（「おすすめ本カード」の作成、掲示や「読書郵便」の活動を通して、校内で図書の情報や読書の楽しさを共有できるようにし、読書の習慣を身に付けられるようにする。）
- ・「読書貯金」や「読書レストラン」など、発達に合わせた読書カードを活用し読書活動の振り返りができるようにする。
- ・担任、学校司書の読み聞かせをはじめ、「どんぐりさん（保護者有志）」、「蔵内さん（読書ボランティア）」の読み聞かせを通して読書に親しむ。
- ・読書の記録を丁寧に指導することを通して、学年×1000ページが達成できた児童には、全校朝会で表彰し、称賛する。
- ・小中連携一貫教育の中で、「ビブリオバトル」の方法を共有し、チャレンジする。

〈成果〉学習規律の徹底はできている。また、読書活動の目標に対し、学年によってはほぼ100%の達成率の学年もある。また、学習支援員・生活指導支援員の配置を工夫し、個を大事にする指導を行うことができた。

〈課題〉保護者アンケート「お子さんは、学年の学習内容が分かっている」では26%が否定的な評価だった。確実に基礎・基本を身に付けていくために方策を考えていく。

③「あたたかく」

○礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。

【目標：学校評価85%以上 自己評価85%以上】

- ・「あいさつ当番」を体験し、挨拶の大切さに気付くことができるようにする。
- ・代表委員会と連携して、「あいさつ名人」運動に取り組む。
- ・府中第七中学校の生徒、教員と連携して、合同の「あいさつ活動」を計画、実施する。

（毎朝校長が正門に立ち、登校する児童に笑顔で挨拶する。）

〈成果〉府中第七中学校との合同「あいさつ活動」等、小中連携を生かした取り組みを行うことが有効であった。また、全児童年に3回以上は校門でのあいさつ運動を行っており、挨拶をしっかりとできる児童に育っている。

〈課題〉年間を通して「あいさつ運動」を行い、校内ではとてもよく挨拶をする姿が見られたが、ご家庭ではその姿ではなく、保護者アンケート「お子さんは、あいさつができる」では肯定的な評価が77%だった。学校だけではなく、家庭生活においても挨拶ができる子に育てていきたい。